

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立大垣南高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和4年6月17日(金) 13:30~15:30
- 3 開催場所 大垣南高校会議室
- 4 参加者委員  
会長 竹内 治彦 岐阜協立大学学長  
委員 五十川智宣 大垣ケーブルテレビ取締役、同窓会副会長  
今村あおい (株) 新生メディカル取締役社長  
小林 月子 サンビレッジ国際医療福祉専門学校校長、元岐阜大学教育学部教授  
小山亜希子 (社福) 楽山・杜の会理事  
酒井 吾郎 洲本連合自治会長  
竹中 拓也 太平洋工業株式会社人事開発部長  
藤田万喜子 岐阜聖徳学園大学教育学部教授  
三輪 賢司 岐阜県公民館連合会会長、元岐阜県小学校校長  
山田 靖 大垣南高等学校育友会長  
オブザーバー 伊藤 秀光 岐阜県議会議員  
学校側 川瀬 英樹 校長  
楠井 徳之 教頭  
古山 晴美 事務長  
北原 剛 教務部長  
西脇 一徳 生徒指導部長  
折山 真生 進路指導部長
- 5 会議の概要
  - ・ 学校の現状について
    - 意見1: 自分が高校生の頃は1学年40人×8クラスだったが、現在は1学年240名との説明であった。この生徒数の減少は、少子化の影響か。
    - 意見2: 大学進学を後押しする姿勢が感じられた。しかし、大学入学を目的とするのではなく、その先に将来何になり、いかに社会に貢献したいかを考えさせる指導を大切にしてほしい。その指導ができれば自然に生徒は努力するようになるのではないか。
    - 意見3: 国家資格など職業に関する資格は、四大進学に限らず、専門学校からでも同じ過程を辿るので、多方面への進路選択を考えさせる指導をしてほしい。
    - 意見4: 学生時代に苦勞することは大切である。社会に出ても苦しいことに立ち向かえる生徒を育ててほしい。「行きたい大学を目指せ」という言葉に共感した。
    - 意見5: 通学途中の生徒の様子ぐらいしか見る場面がなく、情報が少ないが、今後も頑張ってもらいたい。
    - 意見6: 進学校としてわかりやすい学校運営方針であった。授業でICT活用が進んでいてよい。ICT利用により、板書が減ることからできた授業の時間を、有効な指導に使ってほしい。
    - 意見7: 生徒指導について交通事故が多いと感じた。自転車通学を意識的に減らすのも方策かもしれない。
    - 意見8: 公立大学の受験が多いが、公立大学の設立団体は各地方自治体であるから、各公立大学の授業内容は、各地方の趣旨に沿った内容が多く、その部分を生徒に理解させることは必須である。社会に出てからは人脈を作ることも必要なので、地方の公立大学だと人脈作りが難しいのではないか。
    - 意見9: 学習指導について、難関国公立大学受験用のカリキュラムでなく、基本を大切にする「教科書+α」を確実に学ぶことを追求することが大切である。
    - 意見10: 教員の働き方改革も推進してほしい。
    - 意見11: 「自信をつけることを大切に指導したい」との考えに共感した。
    - 意見12: 進学、部活動の成績が、大きく伸びている。教員の指導支援等努力の成果である。
    - 意見13: 多くの生徒が弱い立場の人のことを考えて行動できているので、すばらしい。
- 6 全体のまとめ
  - ・ 第1回学校運営協議会では、全委員より学校経営計画を踏まえた今年度の学校の運営方針に対して承認が得られた。  
校長: 今回様々な視点から貴重な意見が得られたが、高校時代に何かをやり遂げることができた生徒を多く育てたい。難しい現状もあるが、将来何をしたいかまで考え抜く生徒を育て上げていきたい。学校に向けた厳しい意見を得る機会が少ないので、今後も意見を求めたい。